

From the
People of Japan

西アフリカのサヘルと隣接する沿岸諸国における 暴力的過激主義、急進化、小型武器拡散の防止

\$ 予算: 491,490 米ドル

🕒 実施期間: 2023年3月 - 2024年3月

開発課題

西アフリカでは、同地域で活動するイスラム過激派グループによるテロや暴力的過激主義がかつてないほど急増している。ブルキナファソ、マリ、ニジェール西部におけるグループの活動は2021年以降70%増加しており、2015年以降、この地域における暴力事件の絶え間ない激化と拡大が続いている。暴力的過激派はマリからブルキナファソへと徐々に移動しており、現在ではサヘルにおける暴力的過激派による攻撃の58%を占めている。このような活動は、コートジボワール、ベナン、トーゴなどの沿岸諸国に徐々に広がっており、ガーナを含む湾岸諸国への潜在的な拡大が懸念されている。

暴力的な過激派グループは、マリ、ニジェール、ブルキナファソで軍の兵舎から武器を略奪し、鉱山から漏出した資源を備蓄して活動に利用している。また、彼らは攻撃に即席爆発装置 (IED) を使用し、その道具は手作業による金の生産に由来することもある。暴力の広がり、異なるコミュニティ間の社会的結束の悪化を伴う。リプタコ・グルマ地域の暴力的過激主義、組織犯罪、地域紛争のつながりに関する安全保障研究所 (ISS) の調査によると、サヘル地域のテロリストグループは、略奪された軍の兵舎から武器を使用していることが明らかになった。2013年以降、武器はアラブの春以降に略奪されたリビアの兵器庫から調達されていた。しかし、これらの供給源は減少しており、管理が行き届かない国家備蓄から転用された武器や孤立した軍の兵舎への攻撃から、暴力的過激派がマリ、ニジェール、ブルキナファソの軍の兵舎を略奪して武器を入手していることが新たに判明した。小型武器や軽火器 (SALW)、その弾薬、その他の物資は、その後押収され、テロ活動に使用される。この国境を越えた脅威に関する各国間の協力や情報共有は限られている。最後に、アフリカの各地域における暴力的過激主義やテロリストの脅威におけるジェンダーの影響と役割は、十分に調査・理解されていない。

プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、安全保障の関係者と市民社会のアクターとの間の知識と情報共有を改善することである。

これには、西アフリカの7カ国、すなわちベナン、トーゴ、ガーナ、コートジボワール、ニジェール、マリ、ブルキナファソにおけるテロリズム、暴力的過激主義、小型武器拡散、横流し、密売の防止と対策において、治安改善に貢献するコミュニティ指導者、地元銃製造業者、地元主導の活動家も含まれる。活動には、能力開発、トレーナー訓練、地域政策・経験共有セミナーなどが含まれる。

プロジェクトの成果

テロリズム、暴力的過激主義、小型武器の拡散・横流し・密売の防止と対策において、治安要員、備蓄管理者、兵器製造者、治安改善に貢献する現地のイニシアティブ、市民社会の間で、知識と情報の共有が改善された。

西アフリカにおける暴力的過激主義、テロリズム、SALWの新たな原動力に関する、政策立案者や実務者 (備蓄管理者) の知識の向上。

パートナーシップ

コフィ・アナン国際平和維持訓練センター (KAIPTC)
アクラ・イニシアティブ

SDGsへの貢献

